

<23年度 取組の概要>

十日町市では、25年度からすべての学校で小・中一貫教育を実施することになっている。この状況を受けて、前年度から各小・中学校が総合学習や生活科をどのように進めているかという観点で一緒に情報交換を行ってきた。

今年度は、各校の全体計画や指導計画を参考にしながら、全員研修日に中学校区単位の特色・成果・課題等について情報交換を行った。また、昨年度持ち寄った各校の全体計画や指導計画に加え、今年度のまとめをファイルに綴じ込んだ資料集を作成し、今後、各中学校区で9年間を見通した学習計画を立てる際に活用し、改善していくことを申し合わせた。

23年度 生活・総合部 全員研修テーマ
各学校における生活・総合学習の諸計画から
小・中一貫教育推進に向けた連携の手掛かりをさぐる

<小・中学校区別情報交換の主な内容>

1 小学校における特色・成果・課題等

- ・ 地域の伝統芸能や伝統工芸、自然・農作物などにかかわる単元、コンピュータの使い方や情報リテラシーにかかわる単元などの位置付けが充実している。
- ・ 各学年が地域の素材を題材とした活動を大切にしている。各校の人材は活用されているが、中学校区単位の人材バンク整備ができると効率的である。
- ・ EM菌を活用した環境学習、自然科学館（キョロロ）を活用した学習や子ども里山学会への参加、博物館と連携した縄文学習、情報館を活用したブックトーク等、公共施設と連携した学習活動が充実し、特徴的である。
- ・ 小学校でもキャリア教育的な活動は行っているが、キャリア教育の視点に立った明確な位置付けが不足している。
- ・ 総合学習や生活科の学習は担任に任されている部分があり、学年間のつながりや系統性が弱い。

2 中学校の特色・成果・課題等

- ・ 学校林を活用した単元、職業体験などの進路学習、福祉体験を中心とした単元などが多く位置付けられている。
- ・ 特に冬が長く、スキー活動等もあるため、総合学習はまとめどりで行っている。
- ・ 文化祭の午後、総合学習や職場体験の発表会を行い、保護者や地域の方々に発信している。
- ・ 小・中で活動内容の重複がみられるため、調整が必要である。
- ・ 年間の時数が限られ、小学校に比べて一つ一つの活動時数が少なく、単発的になってしまいがちである。そのことから探究的な学習が成立しにくい。
- ・ コンピュータを活用する技能に個人差が大きい。小・中の系統を加味した計画が作成できれば段階的な指導がしっかりできるのではないかと。

3 小・中一貫教育推進に向けての提案（連携強化の方策等）

- ・ 体験が優先となり、評価が後回しの傾向がある。これから特に地域で育てたい資質・能力を明確にし、総合学習や生活科で何を身に付けさせるか役割を絞っていききたい。
- ・ 活動の充実のためには教員のエネルギーが必要であり、意識改革が大切である。
- ・ 活動が職場体験に偏りがちであり、「福祉・国際理解・人権」などのテーマがおざなりになっているのではないかと。様々な活動の位置付けを工夫していく必要がある。
- ・ インタビューの仕方、まとめや発信の仕方などを系統的に身に付けさせるために、小・中が連携した話し合いと指導計画の作成が必要である。